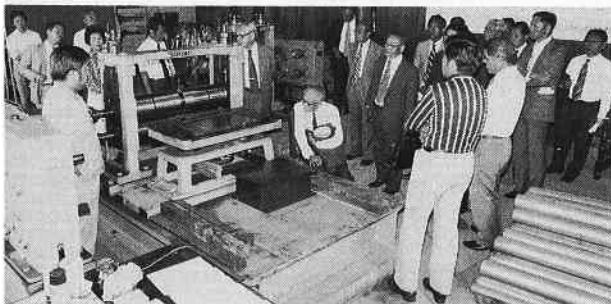


点描 1979～1988



**国際交流室**

研究活動の国際化に伴い昭和59年発足した国際交流世話人は、常設の国際交流室に発展改組した(昭和62年4月1日)。(写真は昭和54年5月28日ソ連研究者来訪の際のもの―物性研究所会議室)



**千葉実験所公開**

創立30周年を記念して千葉実験所が初めて公開された。大規模な実験、観測は同実験所で行われている。(昭和54年5月22日)



**研究委員会**

外部の技術者、研究者との懇談・情報交換のために奨励会の助成により昭和49年度より設置。常時約20の委員会が活動している。



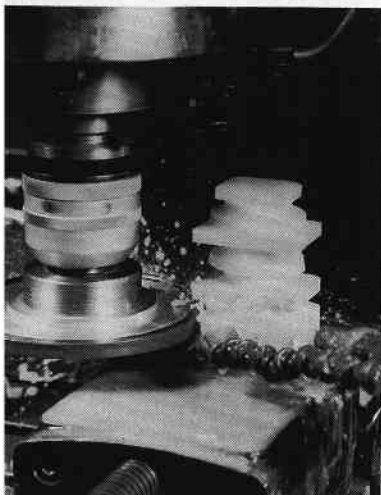
**研究顧問制度**

初代研究顧問江崎玲於奈博士が研究室を視察し、独自の研究の推進を力説された。(昭和59年4月発足)



**運動会**

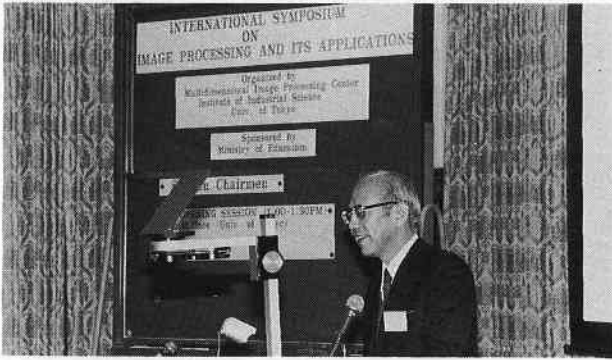
弥生会主催の運動会が、昭和54、55年は、船橋体育センターで、56年以降は所内の中庭で行われている。(写真は中庭)



先端素材開発研究センター始まる  
複合材料技術センターは10年の時限を終え、  
れを発展させる形で先端素材開発研究センタ  
が発足した。(昭和60年4月)

プロジェクト研究「人工衛星による広域多重情  
報収集解析に関する研究」  
正面屋上に人工衛星からの信号受信用パラボラ  
アンテナが作られた。(昭和57年度)





第1回生研国際シンポジウム「画像処理とその応用」  
 (財)生産技術研究奨励会の援助を受けて実施している国際研究活動の1つで、著名な外国人招待講演者を含めて約200名が参加して開催された。(昭和59年1月18~21日)



麻布キャンパス再開発計画(案)  
 将来計画委員会、建築計画調査室で調査検討していた21世紀に向けての麻布キャンパスの再開発計画(案)が完成した。(昭和61年3月)



電子計算機室  
 電算機の利用は年々増加しつつある。昭和54年より2回機器更新し、現在の主システムは昭和60年9月に設置されたFACOM-380 Qと昭和61年12月に新たに導入されたスーパーコンピュータFACOM VP-100である。



文化功労者  
 元所長鈴木弘名誉教授が圧延工学における功績により、文化功労者として顕彰された(昭和61年11月3日)。昭和59年6月には「タンデム(連続)精密圧延の研究」に対し学士院賞を受賞している。



地震による構造物破壊機構解析設備  
 昭和58年春千葉実験所に完成。超高密度アレー観測、弱小モデル等の設備を含む。その後の強い地震により弱小モデルは被害を受けた。(写真は披露時：昭和58年9月14日)



メキシコ地震調査  
 1985年9月19日メキシコ太平洋岸に発生したM=8.1の地震被害調査と復旧のため、ERSグループが活躍した。(写真はメキシコ市中心部における建物の破壊状況)



生研公開

年1回の研究所公開には幅広い層からの多数の参加をみる。会場のあまりの混雑のため所内有線テレビにより主な催しを放映している。



生研公開講座「都市を支える」

昭和62年より、学生、研究者、市民を対象に公開講座が開催された。第1回の参加者は延べ約1700名、第2回は約1500名であった。



生研講習会

(財)生産技術研究奨励会の主催により毎年1～2回広く産業界等の研究者、技術者を対象に新しい学理、技術その応用等について講習会を開いている。

学士院賞  
坪井善勝名誉教授が、「曲面構造の研究と大空間建築構造への適用」により学士院賞を受賞した。(昭和62年5月)



学術講演会「21世紀における工学研究」

「工学の新しいパラダイムを求めて」のテーマのもとに猪瀬本所研究顧問ほか3名の講師による講演が多く聴衆を集めて第1、2会議で開催された。(昭和63年12月23日)



第2代研究顧問

第2代研究顧問に就任された猪瀬博名誉教授が工学の未来について講演された。(昭和63年12月23日)



R. Friedrid

John F. Brunwell

P. J. Brown

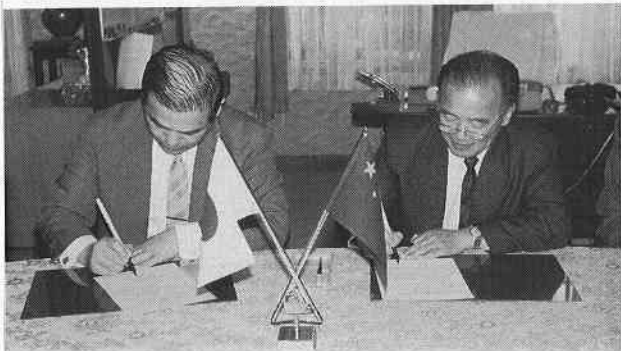
Bitullkassio

[Handwritten signature]

Wolfgang Bank

外国人研究者講演会

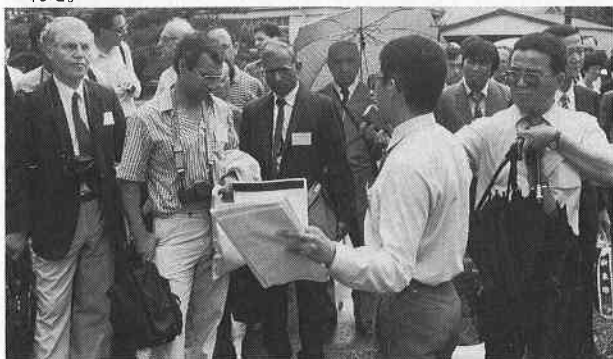
外国人研究者との学術交流を深めるため、(財)生産技術研究奨励会の援助により講演会を開催している。昭和61年度は23回に達した。



中国大連工学院（現大連理工大学）と学术交流協定締結  
昭和62年7月9日大連工学院金院長来訪、調印式が所長室で行われた。



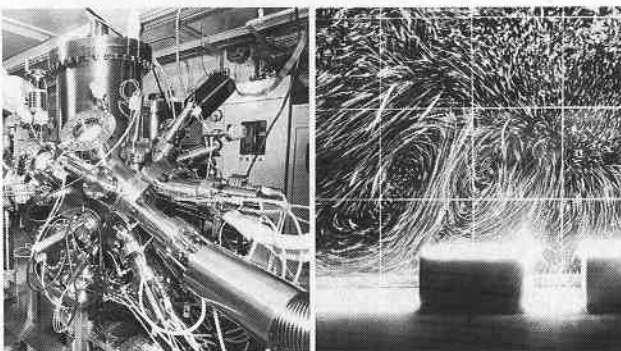
学士院会員  
元所長岡本舜三名誉教授が学士院会員に選定された。(昭和62年)  
昭和57年には「土木耐震工学に関する研究」に対し、藤原賞を受賞。



Technical Tour to Chiba Experiment Station  
第9回世界地震工学会議が東京で始まったのを機に、約140名の外国人研究者を千葉実験所に案内し耐震工学研究施設を中心に見学、懇談が行われた。(昭和63年8月2日)



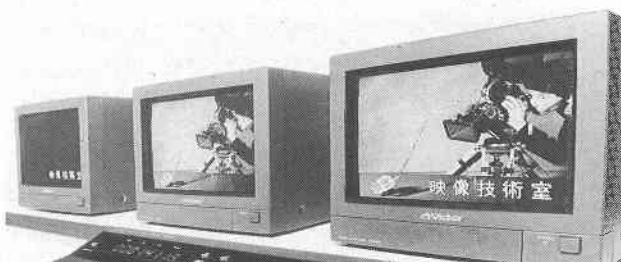
生研外国人研究者・留学生懇親会  
昭和60年には在籍外国人研究者は60名を超えた。(財)生産技術研究奨励会の援助により懇親会が毎年開催されている。なお外国人研究者は62年度には29ヶ国144名に達している。



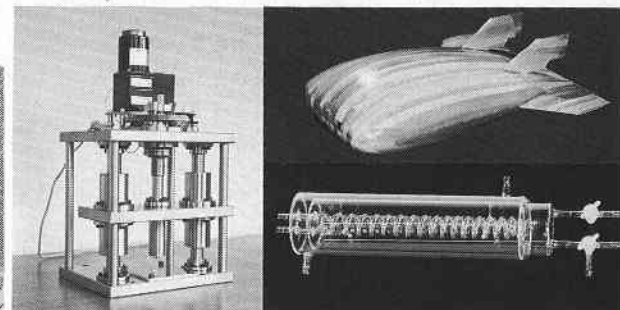
計測技術開発センター・機能エレクトロニクス研究センター  
物理計測・化学計測の2分野で昭和48年に計測技術開発センターが設立、また多次元情報処理センターに次いで機能エレクトロニクス研究センターが昭和59年に発足した。



(財)生産技術研究奨励会理事会・評議委員会  
本所の研究・広報活動全般、特に国際的な学术交流活動の促進、発展に大きな役割を果たしている。



映像技術室  
ビデオ等の新しい分野の画像技術の進展を反映して写真技術班は発展的に映像技術室に改組した。(昭和60年4月)



試作工場  
研究教育上に必要な実験用機械、器具等の設計、試作さらに試験材料の供給等を行っている。金工一般のほか設計室、木工工作室、ガラス工作室、共同利用工作室、電子部品室などを備え、各種の相談と指導のサービスも提供している。